涼州詞（王翰）

葡萄の　美酒　夜光の　杯
飲まんと　欲すれば　琵琶　馬上に　催す
酔うて　沙場に　臥す　君　笑うこと　莫かれ
古来　征戦　幾人か　回る

葡萄美酒夜光杯　欲飲琵琶馬上催
醉臥沙場君莫笑　古來征戰幾人回

解説　戦場で酒を飲み琵琶を弾いて、つかのまの歓楽に酔いしれる兵士の姿を詠った詩。

語釈　※涼州詞＝涼州は唐の西北の国境にあり、玄宗皇帝の開元年間に塞外の楽調を集めて献上したときの曲譜を涼州宮詞曲といった。※葡萄美酒＝西域産の葡萄酒。※夜光杯＝西域に産する白玉製の盃。夜、光を発することからこの名を得た。※琵琶＝西域の楽器。釈名に「琵琶はもと胡中に出ず。馬上に鼓する所なり」とあり、馬上で弾くものであった。※催＝せきたてるように弾く。※沙場＝砂漠地帯。※君＝読者に向かっていう。※征戦＝戦争に征くこと。

通釈　葡萄の美酒を夜光の白玉の盃についで飲もうとすると、だれか馬上で琵琶を演奏する者がいる。したたか飲んで酔いつぶれ、酔って砂漠に倒れ伏してしまっても、君よ、どうか笑わないでくれ。昔から、こんな辺地に出征して、何人が故郷に帰れたであろうか。